

●評価書素案

都市再生緊急整備地域名		秋葉原・神田地域		
	上位計画、関連計画の位置づけ	都市再生に係る事業等	都市再生の効果の発現	特記事項
記載事項	【東京都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針―サステナブル・リカバリー 東京の新しい都市づくり―】(R3.3) ・中枢広域拠点域内における中核的な拠点(秋葉原)、活力とにぎわいの拠点(神田)に位置付けられており、中枢広域拠点域の中でも極めて鉄道網が充実し、高次の中核業務機能のほか、商業、観光、芸術・文化など多様な都市機能が比較的厚く面的に広がる国際ビジネス交流ゾーンに位置する。 ○将来像 秋葉原 ・つくばエクスプレス、JR線及び地下鉄の充実したターミナル機能を有する交通結節性を生かし、ICT関連企業を中心とした業務機能が高度に集積し、業務・商業、文化機能などの集積と産学の連携を促進するとともに、アニメなどの日本独自のコンテンツを世界にも発信する活力にあふれた中核的な拠点を形成 ○将来像 神田 ・土地の集約化や街区再編により、業務、商業、居住機能が高度に集積するとともに、表通りのみならず、雰囲気のある路地空間が活用され、下町らしさも残る、活力とにぎわいの拠点を形成 【千代田区都市計画マスタープラン】(令和3年5月改定) ・秋葉原駅周辺においては電気街、サブカルチャー、ICT関連の産学連携等、まちの進化の過程で醸成される独自の文化を世界に発信し、世界から訪れる人々と次世代のアートやカルチャー、先端技術を介した交流のための機能や空間を充実させていきます。 ・神田駅周辺地域においては、江戸からの下町としての特性や飲食店街としての賑わいの連続性を維持・創出するとともに、神田エリア～日本橋エリア(中央区)をつなぐ交通結節点としての機能を高めていきます。	これまでに、都市再生特別地区の決定を受けた2地区、民間都市再生事業計画の認定を受けた1地区、都市再生特別地区の決定と民間都市再生事業計画の認定を受けた1地区の計4地区が平成26年3月までに整備されている。民間により、事務所、交流施設、住宅、店舗、教育関連施設、ホール等が整備された。また、IT関連産業、産学連携機能、情報ネットワーク機能、集客等機能が導入されている。 秋葉原駅周辺で予定されていた都市開発事業は令和元年度までに完了している。 現在は神田駅周辺(日本橋川沿い)において都市開発事業が施行されており、令和7年度に事業完了を予定している。 公共施設整備としては、秋葉原駅周辺において交通広場、歩行者デッキ、つくばエクスプレスの整備が平成17年度までに行われており、今後予定されている事業はない。	・人口(地域内) 10,447人(H17)→12,929人(R3) :約24%増 ・世帯数(地域内) 6,543世帯(H17)→8,079世帯(R3) :約23%増 ・地価(地域内)※H29、R2に地点変更あり 208.0万円/㎡(H14)→337.4万円/㎡(R3) :約62%上昇	
項目別評価	「東京都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」において、中核的な拠点、活力とにぎわいの拠点到位置付けられている。 「千代田区都市計画マスタープラン」において、整備の方向性が示されている。	都市開発事業や公共施設整備事業が進捗している。今後も都市開発事業が予定されている	人口、世帯数、地価において、都市再生の効果の発現が認められる。	
総合評価	都市開発事業・公共施設整備事業が進捗し、整備の目標の実現が図られつつある。今後も、予定されている都市開発事業について引き続き推進する必要がある。		⇒	地域指定を継続